上州文化

contents

巻頭言／樽井　哲　②
特集　ぐんまミュージアム散歩／桑原高良　③
上野東歌探訪／北川和秀　⑥
㈶群馬県教育文化事業団 INFORMATION　⑩
地域文化をつなぐ／千明政夫　⑪
ART NOW　「書が放つエナジー」／風　喜　人　⑫
カフェの隅から　娘と娘／竹田朋子　⑭

「春　ラッパ水仙」　塩原友子

財団法人　群馬県教育文化事業団　2012　No.129

巻頭言　生活と文化

群馬県文化協会連合会会長　樽井　哲

平成二十三年三月の東日本を襲った地震・津波・放射能漏出による災害は、一年を経ようとしている現在、まだ復旧の見通しも定かではありません。早急な対策対応が待たれます。この災害は、第二の敗戦とも言われているそうです。私も敗戦直後に体験した状況の記憶と重ね合わせてそのように感じ、災害に遭われた方の大変さを実感しました。

終戦時、私は小学校二年生、今の韓国釜山の近くに母と妹二人の四人で住み、そのとき父はかつてのビルマに出征中でした。本国日本への引き揚げは、母の親戚が広島県福山市の田舎にあったので、そこを頼ってのものでした。下関から乗った列車の窓越しに見た広島駅前の建物のほとんど無い瓦礫の光景は、いまでもはっきりと憶えています。父が復員してきたのは小学六年生の時で、その間の生活は、食に関するつらい記憶がたくさんあることから大変苦しいものだったと思います。東日本大災害を第二の敗戦というのもよくわかります。

「衣食足りて礼節を知る」ということわざがあり、それに対応するものに「人はパンのみにて生くるものにあらず」というものがあります。今回の東日本大災害で多くの人の命が失われました。また多くの日常生活を失った人が生じました。そして被災者に対し多くの善意あふれる生活支援が行われました。最初の生活支援に続いて芸能人やアスリートたちの慰問があり「生き返った」「元気が出た」という言葉がよく聞かれました。このことは、人は物質面での不足があっても精神面での充足があればよりよい生き方ができるということを教えてくれていると思います。

現在、社会で大きく取り上げられているのは景気のことや人の安心安全のことなど生活上のことであります。私も大事なことで当然のことと思います。しかし、精神生活を充実し豊かにするのに大きな力を持っている文化活動や体育活動に対する社会の関心や要請を取り上げるのが少ないと思っています。文化や芸能、スポーツについて取り上げられても、それは能力の高い一部の人のことです。精神生活のことは全ての人に大切なことであります。社会全体のこととして積極的に考えてもらいたいと思っています。

群馬県では文化の振興充実をめざした条例が作成されています。現在、社会はほとんど景気や安心安全のことなど生活上のことに関心が集中しています。そのような状況下で、文化振興の条例を作るということは、群馬県としての見識を示したものと思っています。

この条例によって内容の濃い具体策が生まれることを大いに期待したいと思います。

ぐんま ミュージアム散歩

芸術・文化の拠点　再来年に開館40年
知恵と工夫でコレクションを生かす

①「群馬県立近代美術館」（高崎市綿貫町）

桑原高良

人物や芸術作品、歴史遺産など豊富な文化資源、それを育む豊かな自然に恵まれた群馬県。その多彩な恵みを素材とする美術館や博物館、史料館も数多い。それらの施設をふらりと訪問、そこで感じたミュージアムの〝今〟を紹介する。初回は、群馬の森にある県立近代美術館（中山博美館長）を取り上げた。

土曜・日曜日や祝日になると家族連れなどでにぎわう高崎市綿貫町の県立公園・群馬の森。広大な芝生広場やシラカシやクヌギ、コナラなどの大樹が育つ森のゾーンなどで構成される。もともとは旧陸軍の火薬製造所があった場所で、一九六八（昭和四十三）年の明治百年を記念した事業として整備された。

正面入り口から公園に入ると、森を背に大きな芝生広場が目に飛び込んでくる。次に目に入るのが通路左手にある大きな馬の彫刻。高さは四メートル以上あり、その名も《巨（おお）きな馬》、ブールデルの作品だ。群馬にふさわしいと言えなくもないが、それより何より近寄るとその大きさに圧倒されることは確かだ。県立近代美術館を初めて訪れる人には、その馬の彫刻が目印になる。

国内外の近代・現代美術作品の収集、研究、展示を行うこの美術館は一九七四（昭和四十九）年十月に群馬の森の文化施設として開館した。白い立方体を重ね合わせたような建物を設計したのは当時四十代だった建築家の磯崎新氏。開館翌年には日本建築学会賞作品賞に輝いている。

話は前後するが、この美術館誕生には一人の実業家の力があった。文化人としても高い評価のある故井上房一郎氏だ。ブルーノ・タウトへの支援、群馬音楽センター建設などで知られる同氏は、美術館建設にも情熱を注いだ。事前の県民への美術や美術館に関する意識啓発活動、開館にあたっての自身のコレクション寄贈など多大な貢献をした。その経緯などは『井上房一郎・人と功績』（熊倉浩靖著、みやま文庫）に詳しい。

◇7つの展示室

館に入ろう。入り口の長いエントランス部分を抜けると正面に大階段。これには来場者の多くが驚くという。宮殿の階段のように横幅も広く奥行きもある。「ミュージカルの舞台階段のようだ」の声も。階段手前に広がるエントランスホールも不思議な空間。高い天井、公園を眺めるためのように広く取られた開口部（窓）、季節や時間によって差し込む光が訪れる人たちを癒してくれる。

同館は、二〇〇六（平成十八）年末から一年半ほどかけて大幅なリニューアルを行い、展示室も大きく変わった。「展示室の白くて広い壁面による空間はクオリティーが高く、全国でもトップクラスだと思う」（館長）。地方美術館のリニューアル先進事例として注目され、視察も多い。展示室は大小合わせて七つ。いずれも個性的空間だ。そこでは作品のジャンル別やテーマによる展示が行われており、従来の「常設展はいつも同じ」のイメージが変わっている。

企画展や県展（美術、書道）が行われるメーンの展示室1。可動壁によって表情を変える大きなホワイトキューブを展覧会の内容に応じてどう使うかが学芸員の腕のみせどころだという。

ここでは、三月二十五日まで企画展「陶酔のパリ・モンマルトル　一八八〇―一九一〇」が開かれている。内側の展示壁面が斜めに配されるなど展示も大胆、照明も工夫され鑑賞者を飽きさせない。当時製作されたピアノも置かれている。

この空間で昨年（二〇一一年）四月から六月にかけて開催された「司修のえものがたり」の際には、「注

文の多い料理店」をイメージした部屋（展示スペース）が登場、来場者を驚かせたことを思い出した。

企画展を堪能したら、二階の展示室に足を延ばそう。リニューアルで自然光の取入れなどの工夫がなされた、最も広い展示室2ではコレクション展「日本と西洋の近代美術Ⅲ」（四月八日まで）を開催中。湯浅一郎や福沢一郎、モネやルオーなどが並ぶ。現代美術棟部分にあるのが展示室3、4、5。それぞれ「現代の美術Ⅳ」「群馬のガラス工芸」「特集山口薫」（いずれも三月二十五日まで）が企画されている。

今回の訪問で知ったのが、大作二枚程度でいっぱいになる展示室6の存在。日本画を主に展示する展示室7入り口手前のスペースで、現在は福沢一郎の作品が飾られている。作品正面の位置に長椅子も置かれ、休みながら鑑賞できる。

大きな白い壁面が特徴の展示室１

コレクションが並ぶ展示室２

これだけ展示スペースが多いと、来場者からは「企画展だけで十分」「どの展示から見たらいいの」などの声も出そうだ。同館学芸係長の中島幸子さんは「鑑賞に決められた法則はありません。企画展から常設展に行く人も、常設から企画に足を運ぶ人も、企画展だけ見て帰る人もいます。疲れたらレストランでお茶を飲んだり、公園の景色を眺めたり、ミュージアムショップで図録やグッズなど買い物を楽しむこともできます。もちろん友達と来ても、一人で来ても楽しめるのが美術館の良いところです」と話す。

◇アートを身近に

同館では、職員、ボランティア、作家らの協力を得て子どもたちへのアート体験プログラムや、学校との連携事業などを実施し、子どもの時期から本物の美術作品に触れる機会を増やす努力を続けている。その一環として三年ほど前から取り組まれている「美術館アートまつり」（一月二十九日実施）をのぞいた。手軽な工作、美術作品の写真と解説の付いたアートカードを使った遊び、実際の作品鑑賞などに子どもたちが楽しく挑戦していた。支えるのは館職員、ボランティアスタッフら大人たち。「こうした体験を共有することで、美術館の役割を再認識することができる。スタッフが生き生きすると、美術館も生き生きする」（中島学芸係長）という。

群馬の森に来た親子連れを美術館に取り込むための工夫も始めた。絵本など四〇〇冊を配置したコーナー「えほんの森」を同館一階に設けたほか、第二・四木曜日午前中をファミリータイムとし、子ども連れで入館し鑑賞してもらう取り組みも企画。毎回十組くらいの親子が足を運ぶという。「歴史ある館としては冒険かもしれませんが、こうした活動を継続することが美術館ファンを増やすためにも大切だと思う」と中山館長は強調する。

体験型企画いっぱいの美術館アートまつり

群馬県立近代美術館

高崎市綿貫町 992−1 群馬の森内　☎ 027-346-5560
休館日　月曜（休日の場合は翌日）、年末年始

中山博美館長に聞く
「作品購入めざしたい」

□再来年、開館四十年を迎える美術館の果たした役割について。

中山　昭和四十九年、群馬の森にこの美術館が誕生したわけですが、当時は、全国的に見ても地方に専門の美術館は少なかった時代。地元の経済人であり文化人であった故井上房一郎氏らの献身的な尽力によって、明治百年記念事業として群馬の森の自然を生かした県民の美術の拠点が生まれたのです。

私が県庁に入って二年目のこと。その意味では私の県庁生活とこの美術館は同じ時代を歩んできている。まさに思い出の館。そのころの本県には新幹線も高速道路も通っておらず、東京に出かけるのも大変な時代でした。この館ができたことは県民にとって大きな出来事であり、本県の芸術文化振興に大きな意義があったと思います。

三十七年間の歴史で振り返れば、西洋近代美術の展覧会をはじめ、古くから織物業が盛んであった本県の特色を踏まえた染織をテーマにした企画も意識して取り組んできたほか、福沢一郎、山口薫、鶴岡政男、湯浅一郎ら本県ゆかりの作家のコレクションと展示、さらに地元の特色ある作家の展覧会も開いてきた。開館からの来館者数は四五〇万人を超えており、その果たした役割は大きいと思う。

コレクションに意欲を見せる
中山館長

□美術館の現状と今後について。

中山　現状は、東京までの交通アクセスも格段に進歩し、話題を集める大きな展覧会などで都内に行く人も多くなっています。当館だけでなく、地方の美術館はいずれも厳しい状況で、来場者数を増やすことは大変です。しかも、新たにコレクションすることも難しい時代。これまでは、およそ一八〇〇点のコレクションを7つの展示室で工夫しながら紹介してきました。これはそれまでのコレクションがあったからできたこと。

これから十年先、二十年先を考えると、この美術館の伝統を次の世代に、きちんと渡す役割が私たちに求められます。その意味からも、作品を購入できるように努力していきたい。本県出身作家の作品収集に加え、新人作家の発掘に取り組むとともに、県民に望まれ愛される美術館づくりを目指したい。「群馬にいい美術館がある」「群馬の文化レベルは高い」と言われるように。もちろん、次世代の利用者を意識し、子どもたちや保護者を対象にした取り組みにも今以上に力を入れていきたい。

◎館長のお気に入りポイント

第一は、館内から見た群馬の森の景色。特に南側の通路ギャラリーやエントランスからの眺めは最高。公園を含めた周囲の景色はもちろん、差し込む四季折々の光も心を和ませる。次のお気に入りは、レストラン（ころむす）。池に面した席に座り、外を眺めると、池に設置された宮脇愛子さんの作品「うつろひ」が見え、風などの具合によっては、水面に反射した光が池にせり出したピロティ部分に不思議な揺らぎの世界を生む。自然の芸術作品のようだと一人自慢している。

エントランスホールから公園を望む

桑　原　高　良

（くわばら　たかよし）

群馬ペンクラブ会員、群馬県文学会議会員。

1950年生まれ。74年に上毛新聞社入社。藤岡支局長、前橋支局長、編集局文化生活部長、出版局次長、文化情報誌「上州風」編集長、編集局次長などを経て太田支社長。館林シャトルおよび高崎タカタイの編集長。2011年3月退職。現在、中央カレッジグループ学園新聞編集長。著書に『二足の草鞋と本音人生―聞き書き大川栄二』『わがこころ　語る上州人　塩原友子』『初代コロムビア・ローズ物語―人生は歌とともに』（いずれも上毛新聞社刊）。

上野東歌探訪

北川和秀（きたがわかずひで）　一九五一年生。学習院大学大学院人文科学研究科国文学専攻博士課程修了。同大学助手を経て、一九八五年群馬県立女子大学文学部専任講師。現在は同大学教授。専門は上代文学。主な著書に『続日本紀宣命　校本・総索引』『群馬の万葉歌』など。

今回は次の歌をよむことにする。

◎上毛野伊奈良の沼の大藺草他所に見しよは今こそ益れ（三四一七）

ここにうたわれている「伊奈良の沼」は今日のどこに当たるのか明らかでない。邑楽郡にあった板倉沼とする説があるが、確証はない。

歌の内容に入る前に、まずは伊奈良と大藺草とについて述べる。

一、伊奈良について

明治から昭和にかけて、邑楽郡に伊奈良村という村があった。この村は、明治二十二年に実施された町村合併の折に、板倉村・籾谷村・岩田村・内蔵新田村の四ヶ村が合併して成立したもので、伊奈良という村名は、かつて板倉村の一部を伊奈良の里と称したことにちなむという。この伊奈良村は、昭和三十年に、西谷田村・海老瀬村・大箇野村と合併して板倉町となり、今に至っている。

かつて板倉村の一部を伊奈良の里と称したということが確かであれば、東歌の伊奈良の沼の所在を考える上で有力な材料となるが、残念ながらそれに関しては文献上の裏付けが取れない。

伊奈良村という村名の由来については、『邑楽郡誌』に次のようにある。

> 往昔板倉村の一部を伊奈良の里と称し、著名の沼も旧くは伊奈良の沼と呼びしを以て新村名となしたるなり。大字板倉村は往古伊奈良の里と称せしが、後伊度良と訛り、更に伊度良と唱ふるに至り、大同元年以後文字を改めて板倉村と名づけたりと云ふ。

大同元年というのは平安初期の年号で西暦八〇七年にあたる。年号の記載があることで具体性のある話のようにみえるが、この記述によれば、イナラ→イトラ→イタクラという変化は平安初期までに起こったことになる。イナラ→イトラの変化は、ナがトに音韻交替した（ｎａ→ｔｏ）ということであるが、ｎ→ｄという音韻交替は考えられても、ｎ→ｔは考えにくい。また、母音も、イナラならば二音節目・三音節目がａという同じ母音の繰り返し（ｎａｒａ）で安定した形をとっているのに、この調和をあえて崩すような形（ｔｏｒａ）に変化する必然性が説明しがたい。そして、その先のイトラ→イタクラという変化は、トの万葉仮名として用いた「度」の字をタクと誤読したことによって生じたとするわけであるが、これもどうであろうか。確かに「度」の字には「支度」と訓むように漢音タクという音がある。「目出度」「申度」「成度」のように当て字でタクと訓ませる用法もある。しかし、これらの当て字の用法は鎌倉時代以降に生じたものとおぼしく、上代において万葉仮名の「度」はド（少数ながら清音のト）以外に訓んだとは考えがたい。平安初期以前の人が「伊度良」という表記を見れば、まずイドラ（あるいはイトラ）と訓んだはずで、これをイタクラと誤読することはあり得なかったであろう。伊奈良→伊度良→伊度良という説明は、伊奈良の里を板倉村と結びつけるためのこじつけと思われる。

板倉町に鎮座する雷電神社のすぐ北には伊奈良神社という神社がある。この神社名が古いものであれば古地名を考える上で手掛かりとなるが、社殿の裏にある碑文によれば、この神社はこの地から出征していった戦没者を祀るために、昭和三十一年に建てられたものという。伊奈良神社という神社名は、伊奈良村

という村名に由来するものと考えられ、古い時代にさかのぼるものではない。鎮座地の伊奈良村は前年の合併によってすでに消滅しているが、それ故にこそ、あえて伊奈良の名を神社名として残そうとしたのであろう。

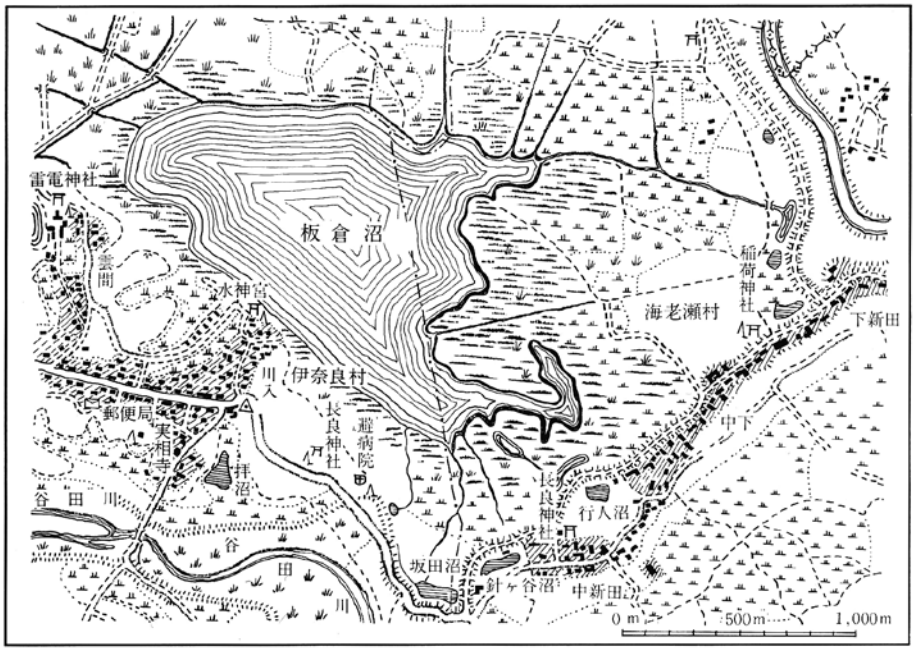
東歌によまれた伊奈良の沼を今日の板倉沼に比定する説は、伊奈良村の成立よりもさらに古く、幕末にさかのぼる。安政年間（一八五四～一八五九）に成立した橋本直香の『上野歌解』に次のようにある。

伊奈良沼は是もいまだ詳らかならず。（或いは曰はく、邑楽郡板倉の沼ならんかと云へるはさもあるべし。さばかりなる大沼の四つまでこのほとりにありといへば、昔はことに広かりけんを、いひもらすべきいはれあらねばなり。）

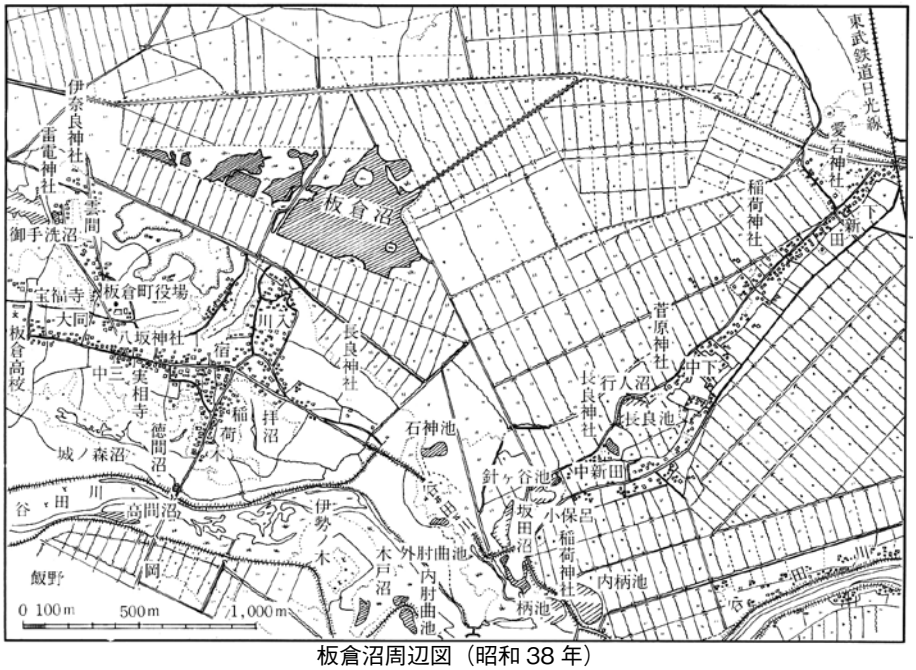
これによれば、伊奈良の沼を板倉沼に比定する説が安政以前に存在したらしい。その説に対して橋本直香は肯定的である。現在の板倉町のあたりは上野国最大の沼沢地であり、古代にはさらに大きな沼や沢があったと考えられる。そういう地の最大の沼である板倉沼が万葉集によまれていないわけはない。だから、万葉集の伊奈良の沼は後世の板倉沼のことである、というのである。

板倉沼周辺の明治四十三年の地図と昭和三十八年の地図とを掲げる。どちらも板倉町史編さん室が作図したもので、『板倉町史』に収録されている。この沼は江戸時代にはさらに大きかったようだが、干拓や埋め立てが進んで小さくなり、昭和五十年代半ばには完全に消滅した。現在、板倉沼の跡は板倉工業団地や農地などに姿を変えている。

万葉集によまれている伊奈良の沼が巨大な沼であったとすれば、板倉沼はその有力候補となろうが、万葉集の歌からは、伊奈良の沼の大きさは分からない。そのような次第で、伊奈良の沼が現在のどこであるのか、残念ながら未詳とするほかはない。



板倉沼周辺図（明治 43 年）



板倉沼周辺図（昭和 38 年）

二、大藺草について

万葉集の原文は「於保為具左」。「おほゐぐさ」と訓む。平安前期成立の分類体の百科事典『和名類聚抄』の「草類」に「莞」と「藺」とが並んで立項されており、「莞」には「於保井」、「藺」には「為」という訓が付いている。そして、「莞」は「以って席となすべき者なり」、「藺」は「莞に似て細く堅く宜しく席となすべし」と解説されている。これによれば、「莞」も「藺」もどちらもムシロの原料になるが、「莞」の方が「藺」よりも太い（あるいは、それに加えて大きい）ので、「ゐ」に対して「おほ（大）ゐ」と呼ばれているのであろう。東歌の「おほゐぐさ」は、この「莞」と考えられる。「莞」は今日のフトイ、「藺」は今日のイグサに比定される。フトイとイグサは『日本大百科全書ニッポニカ』（小学館）には次のようにある。

フトイの項

カヤツリグサ科の多年草。茎は高さ2メートル内外、太さ径5～7ミリメートルで丸く、節はなく、粉緑色。地中を横走する根茎から多数の地上茎が束状に生える。……池、沼など浅い水中に生え、アジア、アフリカ、ヨーロッパに分布する。夏に刈り取って莚（むしろ）を織る。また池に植えて観賞用にする。……

イグサの項

イグサ科の多年草。イまたはトウシンソウ（灯芯草）ともいう。地下茎が泥土中をはい、その各節間は短く詰まっている。地下茎から多数の細い茎が伸び立ち、株状になる。高さ20～60センチメートル、直径1～2ミリメートルの茎は変異が大きく、とくにコヒゲともよばれる栽培品種は、高さ120～150センチメートル、直径2～3ミリメートルもある。……北海道から沖縄までそれぞれ山野の湿地に自生し、さらに東アジアにも広く分布する。イグサの茎は畳表や花莚（はなむしろ）の材料として、また茎の髄は行灯（あんどん）などの灯芯に利用され、江戸時代には各地で灯芯用に栽培された。……

今日、ムシロというと稲藁で作ったものが思い浮かぶが、古代においては、ムシロには様々な種類があり、宮中や貴族の家などでも屋内の敷物としても用いられた。素材も莞や藺の他に、蒋・蒲・萱・葛・菅・竹など、様々なものがある。平安初期に編纂された『延喜式』には、税や貢納物として納められる諸国の物産やその分量が載っている。それに基づいて席を納めた国を多い順に列挙すれば、周防国九八〇枚（調として短席を六三〇枚、交易雑物として席を三五〇枚）、上野国九六〇枚（交易雑物として席を九〇〇枚、細貫席を六〇枚）、山城国八七〇枚（調として広席を二八〇枚、狭席を五九〇枚）、下野国八〇〇枚（交易雑物として席を）、常陸国六〇〇枚（交易雑物として席を）、武蔵国五六〇枚（交易雑物として席を五〇〇枚、細貫席を三〇枚など）などとなる。交易雑物というのは、諸国が購入して中央政府に納めた物品のことである。関東諸国が目立つ中で、特に上野国は全国第二位の位置を占め、席の代表的な産地であったことが知られる。席の材料は様々であるが、沼沢や湿地の植物が多い。さすれば、上野国で有数の湿地帯であった邑楽郡がその主要な供給源であった可能性は高いと思われる。

前節で述べたように、伊奈良の沼が板倉沼であるという確証はないが、大藺草の点からは、伊奈良の沼が邑楽郡に所在した可能性は高いと思われる。

三、「伊奈良の沼」の歌について

上毛野伊奈良の沼の大藺草他所に見しよは今こそ益れ（三四一七）

可美都気努　伊奈良能奴麻乃　於保為具左　与曽尓見之欲波
伊麻許曽麻左礼

上野国の伊奈良の沼に生えている大藺草は、よそ目に見ていたときよりも手間暇掛けて莚に織り上げた今の方が愛着が増している。そのように、あなたのことをよそながら見ていただけの頃よりも、恋人同士になった今の方が、あな

たへの恋心はよりつのっているものを。

「よそ」は空間的に距離のある所というよりは、自分とは無縁の所という心理的な要素が強い語。「見しよは」の「よ」は「より」と同義の語で、ここは比較をあらわす。「雲に飛ぶ薬食むよは都見ばいやしき吾が身また変若ちぬべし（空を飛べるという魔法の薬を飲むよりも、奈良の都を見たならば、卑しいわが身も、また若返ることであろう）」（巻五・八四八）という例がある。

上三句は「他所に見し」を導く序詞と説かれることが多い。大蘭草は沼に生えているので容易に近くまで行くことができず、それで「外に見」るのであるとか、大蘭草には節があるので、それで「節」と同音の「よ」で始まる「よそ」を導く、などと説明される。そういった説明で納得できないこともないが、すっきりしない思いもある。そこで、右に示した口語訳のように歌全体を比喩の歌と解してみた。この歌は万葉集では譬喩歌の部ではなく、相聞の部に収められており、万葉集の編者とは解釈が異なることになるが、必ずしも編者の判断を絶対視することもなかろうと考える。

万葉集巻十一に、柿本人麻呂歌集を出典とする同趣旨の歌がある。

淡海の海沈着く白玉知らずして恋せしよりは今こそ益れ（二四四五）

伊奈良神社

伊奈良の沼の歌の万葉歌碑

＊（琵琶湖に沈んでいる真珠ではないが）あなたのことをよく知らずに恋していた頃よりも、恋人同士になった今の方が、あなたへの恋心はよりつのっているものを。

この歌の場合は、上三句は「知らずして」を導く序詞になっている。湖底に沈んでいる真珠は人に知られないし、また、「しらたま」と「しらず」とで「しら」が同音の反復になっている。伊奈良の沼の歌はこの人麻呂歌集歌を参考にして作られた可能性がある。

なお、伊奈良の沼の歌にも「柿本朝臣人麻呂の歌集に出づ」という注記がある。万葉集には人麻呂歌集を出典とする歌が三六〇首ほど収められており、大部分は近畿地方の歌と考えられる。東歌の巻にも五首あることはある。伊奈良の沼の歌以外は次の通りである。

・ま遠くの雲居に見ゆる妹が家にいつか到らむ歩め吾が駒（三四四一）
　柿本朝臣人麻呂の歌集に曰はく、遠くして。又曰はく、歩め黒駒
・あひ見ては千年や去ぬる否をかも吾やしか思ふ君待ちがてに（三四七〇）
・あり衣のさゑさゑしづみ家の妹に物言はず来にて思ひ苦しも（三四八一）
・梓弓末は寄り寝む現在こそ人目を多み汝を端に置けれ（三四九〇）

いずれも未勘国歌であり、地名もよみ込まれていない。特に東国固有の方言とおぼしき語も含まれていないので、これらは本来は東歌ではないのかもしれない。ただ一首、伊奈良の沼の歌のみが「上毛野」という東国の国名をよみ込んでいるという点で異質である。ひょっとすると伊奈良の沼の歌は、人麻呂歌集歌たる「淡海の海」の歌を踏まえて作られたものであり、そのことで、「柿本朝臣人麻呂の歌集に出づ」という誤伝が生じたということであるのかもしれない。

掲載した万葉歌碑は、平成四年に板倉中央公園（雷電神社の西隣）に設置されたもので、表面には伊奈良の沼の歌の訓読文、裏面には原文が刻まれている。

❖❖❖ 第 35 回県民芸術祭参加『絹の国から』演劇制作事業 アトリエ公演 観覧者募集 ❖❖❖

演劇を通して舞台芸術の振興と、香り高い文化の地域づくり、創造力豊かな県民文化の向上及び人材を育成する「演劇制作事業」の一環として、公募したキャストによる『絹の国から』～紡がれた想いを繋げるために～の演劇公演を行います。

近代群馬の発展に寄与した養蚕・製糸、その時代の人々などを演劇を通して広報することで、世界遺産を目指す「富岡製糸場と絹産業遺産群」を側面から支援していきます。

今年８月に行う本公演に先立ち、お話の一角を紹介するプレ公演を行います。

[日　時]　平成24年3月11日（日）13：00開演
[会　場]　群馬県生涯学習センター多目的ホール
[演　目]　ちーむＡ「運命られた未来」　脚本／生方保光　演出／大月伸昭
　　ちーむＢ「招かれざる来賓と撰ばれし者」　脚本／生方保光
　　演出／中村ひろみ
　　ちーむＣ「それぞれの決断」　脚本／生方保光　演出／生方保光
[スタッフ]　舞台監督／大月伸昭　制作／ 田村千絵
　　音響･照明･舞台／平成23年度舞台スタッフ養成講座
　　大道具製作体験講座受講生　ほか
[入場料]　無料（申込が必要です。先着150人）
[申込･問合先]　Tel:027－224－3960　Fax:027－221－4082
[主　催]　群馬県、群馬県教育文化事業団　　[助　成]　財団法人地域創造

平成 24 年度　群馬県教育文化事業団高等学校等奨学金　*奨学生募集!!*

この奨学金は、無利子です。家計のことが心配な方、先生に相談して申し込んでみませんか。

【 申 込 資 格 】
1. 父母又はこれに代わる者（親権者等）の住所が群馬県内にある人
2. 高校の学習成績が 5 段階法による評定平均で 3.0、高校の成績が未評定の場合は、中学 3 年生の学習成績が 3.5 以上（成績基準に満たない場合でも特例推薦の制度があります。）
3. 親権者等の合計所得金額が当事業団の定める基準額以下
4. 連帯保証人を 2 人立てられる人（1 人は親権者等、1 人は別生計で返還能力を有し、貸与終了時に 60 歳未満の成人に限ります。）

【 申 込 期 間 】
・一次募集　平成 24 年 4 月 18 日（水）～平成 24 年 5 月 16 日（水）…　4 月採用
・二次募集　平成 24 年 8 月 22 日（水）～平成 24 年 9 月 12 日（水）…10 月採用　注：学校から事業団への提出期間です。

【申込先】
在学している学校で申込書を受け取り、指定された期限までに学校へ提出してください。

【 貸 与 月 額 】

公立高校等		私立高校等	
自宅通学	自宅外通学	自宅通学	自宅外通学
18,000 円	23,000 円	30,000 円	35,000 円

※高校 1 年生（一次募集･二次募集共）を対象に、入学一時金の貸与制度があります。（公立高校 50,000 円、私立高校 100,000 円）

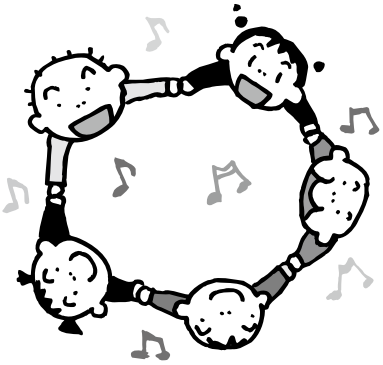
【返還について】
返還年数は貸与を受けた金額により決まります。（6 年から 14 年をかけて返還していただきます。）　返還方法は年賦・半年賦・一括返還から選んでいただきます。
返還開始は、卒業（貸与終了）時に返還手続きを行い 9 か月経過後から始まります。（中途終了者、一括返還者を除く）
※大学・専門学校等に進学した場合は、返還猶予申請を行うことにより、その期間の返還が猶予されます。

詳しくは、在学している学校または群馬県教育文化事業団までお問い合わせください。

教えてください♪あなたの地域の芸能・行事　ぐんま地域文化マップ

教育文化事業団では、県内の様々な民俗芸能・行事を紹介するウェブサイト「ぐんま地域文化マップ」を運営しています。芸能の上演情報や、行事に参加した感想など、情報をお寄せください（お電話・メール・郵便など）。お待ちしております！

「ぐんま地域文化マップ」はこちら→　http://www2.gunmabunkazigyodan.or.jp/cgi-bin/



地域文化をつなぐ

片品村文化協会
会　長　千明政夫

奉額調査

天の理、地の理という言葉がありますが、人生には、そう言う瞬間があると思います。その時を逃せば、もう二度とチャンスは無かった、そう思う時があります。

片品村文化協会が発足して、二十年と言うことで、なにか記念事業をしたいと言う声が会の中で起き、役員総会でいくつかの案が審議され、その中で文芸部の案として、村の各地にある神社仏閣の奉額を調査して、まとめてみたらと言う意見で、役員会がまとまり活動が始まりました。

そうした経過の中で、教育委員会文化担当の職員さんから、群馬県教育事業団から、今回の事業につき、団の補助事業として後援する、と言うお話で、この活動にも弾みがつきました。

当時の文化協会会長の小林正二さんを委員長にして、編集は私が経験もあると言うことで実務を担当することになりました。

こうして文芸部を中心にして十一人の委員を選定、活動に入りました。

毎週、水曜日を活動日と決めて、村の中央公民館の一室を事務所として、朝集合、夕方、時には夜迄かけて、各神社、仏閣、個人の座額、句碑などを調査、若い私たちが、奉額を地上に下げたり、天床裏などから古い奉額を探しだしたり、年配者、もう八十歳を過ぎている人もいましたが、そうした人が大きな天眼鏡などを手に、難しい文字や、風雨に晒されて、消えかかっている文字などを判読、又教育委員会の職員さんが車の運転や奉額などの写真を撮影、もう全員が全力投球という形で事業が始まりました。

時には山の奥など車が行かず、急な坂道や、石の階段なども、皆元気で活動、こうして約一年がかりで「ふるさとの句跡」と題して、奉額三十七、座額十一、句碑九基、片品村の俳人・物故者三十四人、健在者三十人の俳歴等の内容で、昭和六十三年にB5版、百三十五頁の上製本、発行者片品村教育委員会、編集片品村文化協会、後援群馬県教育文化事業団として発刊しました。

この一年間、全員が自分の仕事を忘れて活動した汗と努力の結晶です。

その当時の年配者達も皆亡くなり、生存しているのは、私と病気療養中のもう一人だけです。

もう今では、一年間こうした活動を続けることや、奉額の解説も、今ではとても無理、夢の世界です。振りかえって本当によかったと思います。

完成本の巻頭に、星野成一片品村長さんや、横山巌群馬県教育文化事業団理事長さんの御祝辞等が飾られております。

それからもう二十六年の歳月が過ぎた今、奉額の風化も進み、又、神社等の改築等で失われた奉額等もあり、今ではこの本で偲ぶだけの作品もでてまいりました。

でもこうして記録したことで、先代達の足跡も、又、奉額に見る時代の大きな流れも、しっかりと未来につなげていけると思っています。

五輪書

書が放つエナジー

そうです。心がカゼをひいたとき、書がカンフル剤になることもあるのです。かつて友人から彼女が入院したと相談を受けました。どうやらうつ病であると。私は彼に彼女の顔写真を見せて欲しいと言い、するとひとつの詩が浮かびそれを和紙に表現。木の温もりの感じられる額に入れ彼に手渡しました。「君の笑顔って、まるでひまわりのようだね。」後日彼から報告を受けました。ベッドで冴えない顔をして横になったままの彼女へその詩を手渡すと、それをじっと見つめ一呼吸したと思ったら溢れ出す涙に彼は声をかけるタイミングを失ったと。そしてしばらくその状態が続いたことを語ってくれました。

彼はこうも言っていました。感謝と同時に人前で涙さえ見せない彼女が詩を抱えながら涙したことに嫉妬心が芽生えた、と。その後間もなく快復し、退院したと報告を受けました。

この様な事が幾度もあり、これが書で生きる決意につながり、また使命であるようにも感じています。そして導かれるかのように人と出会い、個展や国内外での出展や制作依頼をいただけるようになりました。人とは頭で考える動物ですが、時にはその考えがブレーキになってしまう部分もあります。私は、

虎視眈々

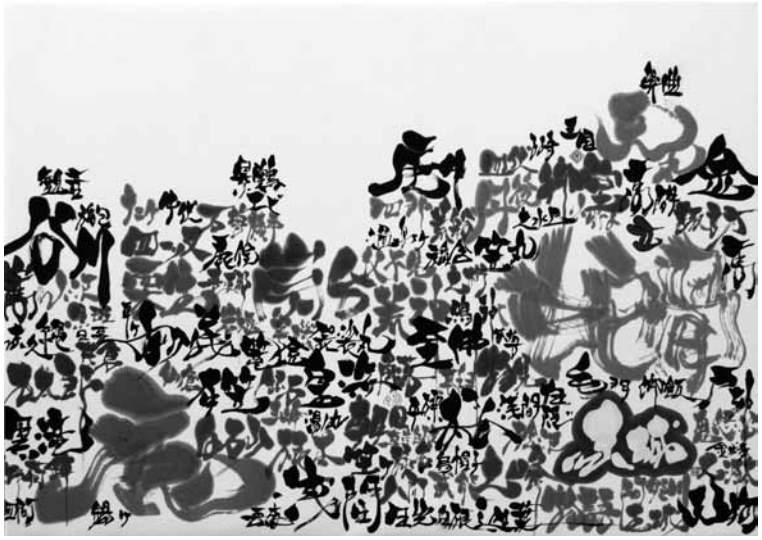
頭ではなく胸で感じるよう心がけ、タイミングをつかむようにしています。

青年期にはインドネシアの小さな島で1年半過ごしました。日本を出発してから現地に到着するまで五日間から一週間もかかる場所です。これは治安の悪さと国民性や、交通機関によるもので、最後は三人乗りの舟で六時間かけようやく現地に到着します。この島に住むのは、矢族と原住民。医者も無く学校も無く水道も無く米も無く電気は自家発電…そんな生活の体験が今日の私に役立っており、書としての表現のベースになっています。

現在まで数回の個展を開催してきました。毎回多くの事を気づかされ、そして学び得ていると認識しています。人々の雰囲気やつながりや何を感じ何を求め何を思うのか、私はそんなことを見逃さず次に向けての課題とし、心しています。

ある会場で、一人の女性が来観し一つひとつゆっくり見ていると在る作品の前で立ち止まり、そのまましばらく立ちつくしていました。私は声を掛けようとしましたが、その女性の涙して動きが止まった状況を察し、そっとしておきました。女性の方から「この作品を見ていたら自然と涙が出てとまりませんでした」と言ってこられました。私自身その女性の言葉にとても感動しました。その女性には、わき出る涙の体験を日常生活に活かし家族や友人、会社等々に生かすことを望み書を目の前にかかげ語り合って欲しい…そう心から念じずにはいられませんでした。

私は創造の展開に向け動き始め、五年目を迎えました。こんな時代だからこそまわりに惑わされず己の考えを貫き、思いのまま進むことを望みます。書と向かい合い、己の内面に問いかけ次のステップのきっかけになればとの思いで創作しています。人からの評価など気にしない、なぜなら人に評価などできるはずがない。所詮評価は他人事にすぎない。一人ひとりに存在意義が在り、それは誰にも評価できないものだから。



百名山（妙義山）

風墨書家　風喜人

1961年　群馬県出身、前橋市在住。
幼少期より太陽（アマテラス）に感謝を伝えつつ成長。
幸いにも書に親しむ環境があり、墨や筆が日常の遊び道具の一つでした。
青年期には仕事でインドネシアへ赴任。
2007年12月、書を生業として生きる決意
2008年5月　初個展（太田市）
2009年6月　平城遷都1300年記念書道展（奈良県・国立博物館）
2010年10月　清水寺 古と優艶の書画展（京都府・清水寺）
2011年6月　天墨の書〜現代精鋭書聖家展（奈良県・東大寺）

放下着（ほうげじゃく）

カフェの隅から

娘と娘

竹田朋子

私には、二人の娘がいる。

息子のもとに嫁いできてくれた娘Tと、嫁いでいった娘Mである。

二人とも三年前に結婚し、翌年には双方に女の子が授かった。どこまでも仲のよい娘たちである。T夫婦は隣町に、M夫婦は東京に住んでいる。Mが里帰りしたおりには、Tも即座に駆けつける。お互いに「お姉ちゃん」「Mちゃん」と呼び合い、肩を並べて授乳する姿を見るのは、この上ない喜びだ。

先日、知人に娘たちを紹介したおり、「あら？　娘さんは確か一人だけだったはず……」と不思議そうな顔をされた。「お嫁にきてくれた娘と、行ってくれた娘です」と言葉を添えると納得の笑顔をなさった。すかさずMが「やっと（お嫁に）行けた娘です」と返すと、笑いの渦がおこる。

何もそんなややこしい呼び方をしなくても、と思われるだろうか？　もちろん嫁という言葉に特別のこだわりがあるわけではない。だが、Tに対しては嫁という意識が全くない。

彼女のお母様と私は旧知の仲で、彼女の伯母様にも幼いころからよく遊んでいただいた。そんな経緯もあり、彼女は私にとってもまた娘なのだ。

Tを人様に紹介するおりの言い方を思案中「新しい娘」も浮上したが、それではMは「古い娘」かと独り苦笑した。

「お嫁にきてくれた娘」に落ち着いたのは、もしかしたらあの歌の影響かもしれない。そう『うれしいひな祭り』だ。

〽お嫁にいらした姉様によく似た官女の白い顔

私はこの歌が大好きで、小学校の音楽の時間は歳の離れた妹になりきり、義姉を慕うような気恥ずかしさ、誇らしさで歌ったものだ。「お嫁にいらした姉様」なんて素敵な響きなのだろう。

さて、春のやよいは節目の季節でもある。Tはこの春、職場復帰する。子育てと仕事の両立だ。一方Mは、お義母様が緊急入院し、子どもと共に病院に通う日々である。

人生は修行だという。二人の娘たちに、そして子育て真っ最中の全国の若いお母様たちに、どうぞ春の神様、やさしくて強い風で後押ししてください、と祈っている。

竹田　朋子〈略歴〉
長野原町出身／群馬ペンクラブ会員
散文誌「せせらぎ」同人／短歌誌「遠天」同人
第55回「日本随筆家協会賞」受賞／第46回群馬県文学賞受賞
著書『風の吹く道』

レストラン　伊万利ダイン
前橋市文京町 2-20-22 群馬県生涯学習センター別館 TEL：027-224-1693

群馬県・伊香保温泉

HOTEL 天坊

政府登録国際観光旅館
ロイヤルチェーンホテル加盟店
群馬県渋川市伊香保町396-20
予約直通 Tel.0279-72-4489

東京営業所 東京都台東区東上野6-10-7金子ハイツ503 〒110-0015
Tel. 03-3843-0083

埼玉営業所 埼玉県さいたま市中央区下落合4-23-10-101 〒338-0002
Tel. 048-856-1660

●料理茶屋 湯の花亭 上州四季の懐石

春 夏 秋 冬

味わいの旅

——四つの食事処で料理が選べる

アパマン・土地建物・
店舗事務所・土地活用

ペット可

株式会社 藤田ビジネスプロモーター
http://fujita-biz.co.jp/
前橋市問屋町一丁目1番1号　027-251-4455(代)

ローンのお申し込みは、群馬銀行へ！

住宅ローン「金利選択プラン」
選べる魅力で快適な住まいづくり

マイカーローン
自動車の購入・車検等に

教育ローン「仕送り名人」
入学金・授業料・仕送り費用に

住宅リフォームローン
ご自宅の増改築・補修・改修費用に

「ナイスサポートカード」カードローン
ホームページ・モバイルサイトからもお申込可能

フリーローン「おまとめ太郎」
ご返済をまとめて一本化

詳しくは窓口または、下記までお問い合わせください。
群馬銀行ダイレクトセンター
0120-139138 受付時間 9:00～20:00
土・日・祝休日、12/31～1/3は除きます。

あなたの夢、応援します。
群馬銀行
http://www.gunmabank.co.jp/

編集後記

◇今号より編集担当となりました。作業に取り組むにつれ、勇退した前任の偉大さをひしひしと感じ己の力量不足を痛感します。いつの日か辿り着くことを目標に大先輩の背中を追う日々です。

◇春はすぐそこ。卒業そして入学入社と、節目への蠢きを日増しに肌に感じます。私も、先輩からバトンを託された後輩としての志と、未知の場に一歩踏み出すときめきを忘れずに編集にあたりたいと思います。

◇決して多くない頁数であれど沢山の方々の協力によりこの冊子が編まれているのだと、当たり前のことに改めて気付き有り難さをかみしめています。今後ともよろしくお願いします。（MU）

◇本誌希望の方は、送料（140円×希望回数分の切手）を添えてお申し込み下さい。また、ご要望ご意見等もお寄せください。

題字・群馬県知事　大 澤 正 明

ⓒ 財団法人 群馬県教育文化事業団
（本誌からの無断転載、コピーを禁じます。）

上州文化
●第129号 ●平成24年2月25日発行（年4回発行）●発行人 小 見 輝 夫
●発行所 〒371-0801 前橋市文京町二丁目20-22 財団法人群馬県教育文化事業団
●電話 027-224-3960 ● URL http://www. gunmabunkazigyodan.or.jp/
●印刷 ㈱開文社印刷所 前橋市大手町三丁目18-7